

# [5]

## 症状別の中医学治療

### 1 腫瘍

#### ● 概念

がんの増殖・浸潤・転移により、体表または体内に腫瘍が発生する。多くの場合、腫瘍は硬く、部位が固定しており、初期には無痛である。次第に大きくなり、ほかの部位に転移して、新しい腫瘍を形成する。腫瘍が形成される病機として、痰凝・瘀血・熱毒内結がある。

#### ● 治療原則

扶正祛邪

扶正：益気・養血・滋陰・温陽

祛邪：活血・化痰・軟堅散結・清熱解毒

#### ● 弁証論治

証	症状	舌・脈	病機	治法	方剤
痰濁凝結	腫瘍は硬く、無痛で部位が固定。胸悶・ため息	苔薄・脈弦	気機が鬱滞し、痰濁を凝結する	理気舒鬱 軟堅化痰	四海舒鬱丸
血瘀阻滯	腫瘍は硬く、部位が固定。無痛あるいは刺痛があり、夜に悪化。出血することもあり、血液の色は紫暗、血塊が混じる	舌質紫・瘀斑・脈細澀	瘀血が内阻して、血脈を瘀滯する	理気活血 化瘀通絡	血府逐瘀湯
熱毒壅結	腫瘍は硬く、部位が固定。痛みがある。局所の皮膚が赤く、熱く痛む。煩熱・多汗・口苦。尿量が少なく、色が濃い。便秘または出血があり、量が多く、色が鮮やか	舌質紅・苔黄・脈滑数	熱毒が内盛し、壅結する	清熱解毒 消腫散結	黄連解毒湯 +犀角地黄湯
気虚瘀結	腫瘍が大きくなり、体がだるい。めまい・動悸・精神疲労・食欲不振・泥状便。顔色が白く、艶がない	舌質胖淡・苔薄・脈細弱	瘀結が内停し、正気を耗傷する	健脾益気 活血化痰	補中益気湯 +桂枝茯苓丸

四海舒鬱丸 (『瘍医大全』)：海蛤粉・海帶・海藻・海螵蛸・昆布・陳皮・青木香  
 血府逐瘀湯 (『医林改錯』)：当歸・生地黃・桃仁・紅花・枳殼・赤芍・柴胡・甘草・桔梗・川芎・牛膝  
 黃連解毒湯 (『外台秘要』)：黃連・黃芩・黃柏・梔子  
 犀角地黃湯 (『備急千金要方』)：犀角・生地黃・牡丹皮・芍藥  
 補中益氣湯 (『脾胃論』)：人參・黃耆・白朮・甘草・当歸・陳皮・升麻・柴胡  
 桂枝茯苓丸 (『金匱要略』)：桂枝・茯苓・牡丹皮・桃仁・芍藥

## 2 発熱

### ●概念

がんにより惹起される発熱を腫瘍熱という。腫瘍熱が発生するメカニズムは未解明の部分があるが、がんそのもの、あるいはがん細胞の壊死物質から産生される Tumor necrosis factor (TNF) , Interleukin (IL) -1, -6, interferon (INF) などがプロスタグランジン (PG) を誘導し、視床下部に作用し体温のセットポイントを上昇させると考えられている。ホジキンリンパ腫や白血病などの血液悪性腫瘍・腎細胞がん・副腎腫瘍・骨肉腫・大腸がん・肝細胞がん・膵臓がんなどによくみられる。また、感染症を合併する場合も発熱がある。

中医学的には腫瘍熱は内傷発熱と弁証されることが多い。外感表証（寒気と発熱が同時にみられる）の発熱は、感染症を合併するときにみられる。

腫瘍熱の病機には、陰虛火旺・瘀血阻滯、鬱熱内盛・中氣不足、陰火内生・湿熱壅盛などがある。

### ●治療原則

扶正祛邪・清補併用

虚証：益気・滋陰・清熱

実証：理気・活血・除湿・清熱

### ●弁証論治

証	症状	舌・脈	病機	治法	方剂
陰虛発熱	午後から夜にかけての潮熱・手掌と足の裏に熱感がある・心煩・不眠・寝汗・咽喉の乾燥	舌質紅・裂紋・舌苔はないか少ない・脈細数	陰虛によって体内で虚熱が生じ、虚火が熾盛となる	滋陰清熱	青蒿鱉甲湯
瘀血発熱	午後または夜に発熱・局所の熱感・咽喉が乾燥するが多くは飲みたがらない・しこりまたは固定的な痛み・顔色が暗黒色	舌質青紫・瘀点・瘀斑・脈洪	血行瘀滯によって体内で瘀熱が生じる	活血化瘀	血府逐瘀湯

気虚発熱	熱は高いことも低いこともある・手足の無力感・呼吸が浅く、言葉を発することが億劫・自汗・かぜを引きやすい・食欲がない・泥状便	舌質淡・苔薄白・脈細弱	中気不足によって体内で陰火が生じる	益気健脾 甘温除熱	補中益気湯
熱毒発熱	高熱・顔が赤い・発汗・口渇で冷たい水を欲しがらる・便秘・尿の色が濃い	舌質紅・苔黄乾燥・脈洪数	瘀血が内結し、熱毒が熾盛する	清熱解毒	黄連解毒湯
湿熱発熱	発熱・発汗しても熱が下がらない・口渇があるが多くは飲みたがらない・心煩・胃脘痞悶・悪心・小便短少で色が濃い・大便溏薄・黄疸	舌質紅・苔黄膩・脈濡数	湿が鬱して化熱し、湿熱が旺盛になる	清熱利湿	茵陳蒿湯 + 蒿芩清胆湯

せいこうべつこうとう

青蒿鳖甲湯 (『温病条弁』): 青蒿・鳖甲・生地黄・知母・牡丹皮

けつぶちくおとう

血府逐瘀湯 (『医林改錯』): 当帰・生地黄・桃仁・紅花・枳殼・赤芍・柴胡・甘草・桔梗・川芎・牛膝

ほちゅうえつきとう

補中益気湯 (『脾胃論』): 人參・黄耆・白朮・甘草・当帰・陳皮・升麻・柴胡

おうれんげどくとう

黄連解毒湯 (『外台秘要』): 黄連・黄芩・黄柏・梔子

いんちんこうとう

茵陳蒿湯 (『傷寒論』): 茵陳蒿・山梔子・大黄

こうごんせいたんとう

蒿芩清胆湯 (『重訂通俗傷寒論』): 青蒿・黄芩・茯苓・滑石・青黛・甘草・半夏・陳皮・枳殼・竹茹

### 3 疼痛

#### ● 概念

がん性疼痛は、がん細胞の浸潤により組織を損傷したり圧迫したりすることが主な原因である。神経因性疼痛のほか骨転移・消化管閉塞 (イレウス)・腹部膨満・炎症などがあるときにみられる。

病機には、気滯・痰飲・瘀血による経絡閉阻のために起きる「不通則痛」と、気血陰陽の不足によって臓腑経絡を養えないために起こる「不栄則痛」がある。

#### ● 治療原則

実証: 理気・活血・化痰

虚証: 滋陰養血・益気温陽

## ● 弁証論治

証	症状	舌・脈	病機	治法	方剤
気滯	脹痛（部位が固定しない）・胸悶・胸脇部の脹満感・げっぷ・ため息・便秘	苔薄白・脈弦	気機阻滞によって、脈絡が不通となる	理気止痛	柴胡疏肝散
瘀血	局所の激痛あるいは針で刺すような疼痛（場所が固定・押すと痛みがひどくなる・夜間に悪化）・顔色が黒い・肌膚甲錯	舌質紫暗・瘀斑・脈澀	瘀血が内阻して、脈絡を壅滞する	化瘀通絡	失笑散 + 血府逐瘀湯
寒凝	激しい疼痛（温めると和らぎ、冷やすと悪化する）・冷え・手足が冷たい・泥状便・小便が透明で量が多い	苔薄白・脈沈細	寒邪が経絡に凝滞し、陽気が抑制され、気機を阻滞する	温経散寒	附子理中湯
鬱熱	局所の灼熱痛があり、痛みの勢いが急迫する・発熱・口が乾燥して苦い	舌質紅・苔黄・脈弦数	気鬱化火によって経絡を阻滞する	理気泄熱	丹梔逍遙散
気血両虚	シクシクする疼痛で、軽かったり重かったりする・倦怠感・顔色不良・唇の色が淡い・めまい	舌質淡・苔薄・脈細弱	気血不足によって経絡を養えない	益気養血	帰脾湯

柴胡疏肝散（『景岳全書』）：柴胡・香附子・枳殻・陳皮・川芎・芍薬・甘草

失笑散（『太平惠民和剂局方』）：五靈脂・蒲黄

血府逐瘀湯（『医林改錯』）：当帰・生地黄・桃仁・紅花・枳殻・赤芍

附子理中丸（『太平惠民和剂局方』）：附子・人參・白朮・炮姜・炙甘草

丹梔逍遙散（『医統』）：当帰・白芍・白朮・柴胡・茯苓・甘草・生姜・薄荷・牡丹皮・山梔子

帰脾湯（『正体類要』）：人參・黄耆・白朮・甘草・生姜・大棗・当帰・遠志・茯神・酸棗仁・竜眼肉・木香

## 4 出血

### ● 概念

鼻出血・皮下出血・喀血・吐血・便血・尿血などの出血症状は、がんによくみられる。がんの血管への浸潤と破壊・がん細胞の虚血による壊死・肝機能障害による凝血機能障害・末期がんの播種性血管内凝固症候群（DIC）などによるものである。

病機としては、以下のものがあげられる。

実証：気火亢盛・迫血妄行・瘀血阻滞・絡傷血溢。

虚証：陰虚による虚火旺盛・血絡焼灼。気虚による固摂不能。

## ● 治療原則

実証：清熱涼血・化瘀止血

虚証：滋陰降火・益氣固摂

## ● 弁証論治

証	症状	舌・脈	病機	治法	方劑
熱毒内蘊	出血の色は赤または紫・口渇・便秘・大便が黒色	舌質紅・苔黄・脈滑数	熱毒が体内に鬱して脈絡を損傷する	清熱瀉火涼血止血	瀉心湯 +犀角地黄湯
陰虚火旺	出血の量が少なく色が赤い。ほてり・口と咽喉の乾燥・顔面紅潮・寝汗・腰と膝がだるい	舌質紅・脈細数	虚火が内熾して脈絡を灼傷する	滋陰降火涼血止血	知柏地黄丸
瘀血内阻	出血を繰り返す。血の色は暗く血塊が混じる。顔色が黒い	舌質紫・紫斑・脈細澀	瘀血阻滯によって脈絡を損傷し、血が溢れる	活血通絡化瘀止血	血府逐瘀湯
脾不統血	出血を繰り返す・血の色が暗く淡い・顔に艶がない・食欲不振・倦怠感・声が低い・歯肉出血・皮下出血	舌質淡・脈細弱	中氣不足によって血液の固摂不能になり、血が溢れる	健脾益氣摂血	帰脾湯

しゃしんとう

瀉心湯（『金匱要略』）：大黄・黄芩・黄連

さいかくじおとう

犀角地黄湯（『備急千金要方』）：犀角・生地黄・牡丹皮・芍薬

ちばくじおとう

知柏地黄丸（『医宗金鑑』）：知母・黄柏・熟地黄・山茱萸・山薬・茯苓・牡丹皮・沢瀉

けつぷちくおとう

血府逐瘀湯（『医林改錯』）：当帰・生地黄・桃仁・紅花・枳殻・赤芍

きひとう

帰脾湯（『正体類要』）：人參・黄耆・白朮・甘草・生姜・大棗・当帰・遠志・茯苓・酸棗仁・竜眼肉・木香

## 5 胸水

### ● 概念

肺がん・転移性肺がん・悪性胸膜中皮腫・悪性縦隔腫瘍・乳がん・膵臓がんなどが胸膜に浸潤すると、胸水（滲出液）が生じる可能性がある。また末期がん患者の低タンパク血症や心不全などによっても胸水（漏出液）が発生することがある。胸水が増加すると肺が圧縮されて呼吸困難が起き、患側胸腔が陽圧となり、縦隔健側の偏位や急性心不全も起こりうる。

胸水は中医学の「懸飲」に属する。病機は肺・脾・腎の機能失調により、三焦不利で水液が停聚したためである。